新品種候補　　（作成　平成16年1月）

てんさい新品種候補

「Ｈ１２９」の概要

道立十勝農試、北見農試、中央農試、上川農試、北農研センター
北海道てん菜協会(日本甜菜製糖㈱、北海道糖業㈱、ホクレン)

１．特性一覧表

系統名	Ｈ１２９	来歴	「Ｈ１２９」は、オランダのアドバンタ社が育成した三倍体単胚の一代雑種である。平成12年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、平成13年より各種試験を行った。

特性	長所	１）根重が多く、糖量が多い。	短所	１）褐斑病抵抗性が“弱”である。 ２）耐湿性が“やや弱”である。

普及見込面積	平成16年度 2,000ha　平成17年度以降 17,000ha

形質 ＼ 系統・品種名		Ｈ１２９	モノホマレ（標準品種）	アーベント（対照品種）
倍数性		三倍体	二倍体	三倍体
葉姿		やや開平	直立	やや開平
葉長		やや短	長	やや短
葉数		やや多	やや多	中
葉形		楕円	皮針	楕円
クラウンの大小		小	小	小
根形		円錐	円錐	円錐
分岐根		少	少	少
露肩		やや少	中	やや少
根重 (t/10a)		7.53(108)	6.96(100)	7.14(103)
根中糖分 (%)		17.57(102)	17.22(100)	17.64(102)
糖量 (kg/10a)		1,320(110)	1,195(100)	1,256(105)
有害性非糖分 (meq/100g)	アミノ態窒素	1.86(107)	1.75(100)	1.64(94)
	カリウム	3.73(93)	4.02(100)	4.06(101)
	ナトリウム	0.32(77)	0.41(100)	0.29(70)
不純物価 (%)		3.72(95)	3.91(100)	3.70(95)
特性検定	褐斑病抵抗性	弱	やや弱（やや強）	弱
	根腐病抵抗性	やや弱	やや弱（　弱　）	やや弱
	耐湿性	やや弱	やや弱	やや弱
	抽苔耐性	強	強	強
	黒根病抵抗性	中	中	－

注１）特性検定は担当農試の成績で、褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の（　）内は品種登録時の評価。
２）形態的特性は十勝農試の成績。その他は十勝、北見、中央、上川、北農研、てん菜協会（３カ所）の計８カ所平均で、試験年次は３カ年(H13～15)、（　）内は「モノホマレ」に対する百分比。
３）黒根病抵抗性は単年度結果から、「モノホマレ」と同程度（中）と考えられる。

２．「Ｈ１２９」の特記すべき特徴

根重は「アーベント」より多く、根中糖分は「アーベント」並で、糖量が「アーベント」より多い。不純物価は「アーベント」並である。

３．優良品種に採用しようとする理由

てん菜の根重および根中糖分の優れた品種の導入、普及は生産性の向上にめざましい成果をあげてきており、平成１１年優良品種に認定された「アーベント」は、根重、根中糖分ともに優れた多収品種として、平成１５年には約２万２千haと広く栽培されている。

しかし、最近の砂糖の価格情勢は厳しく、生産者の収益が低下していることから、根重、根中糖分が「アーベント」をさらに上回る品種の普及が切望されている。

「Ｈ１２９」は、「アーベント」と比較して根中糖分は同程度であるが、根重が多いため、糖量が多い。なお、不純物価は「アーベント」並で品質は同程度、褐斑病抵抗性は”弱”であるが「アーベント」より発病はやや少なく、その他のてん菜主要病害に対しても特に問題となる点はない。

このことから、「Ｈ１２９」を「アーベント」に替えて北海道一円に普及することにより、てんさいの多収化と安定生産に寄与できる。

４．適地

北海道一円。

５．栽培上の注意

１）褐斑病抵抗性が“弱”なので、適切な防除に努める。

２）そう根病抵抗性を持たないので発病圃場での栽培を避ける。